



2022年12月1日発行
公益財団法人とちぎYMCA
〒320-0411
宇都宮市松原2-7-42
Tel 028-624-2546
Fax 028-624-2489
www.tochigiyymca.org
発行人 / 塩澤 達俊
編集人 / 公益財団法人とちぎYMCA

YMCA News

12

「クリスマス 平和への縁」

表紙の写真から：2021年度さくらんぼ幼稚園クリスマス会の降誕劇にて、ヨセフとマリアを演じる子どもたち。

「クリスマスにはサンタさんが来るんだよね」

私が園長を務めている幼稚園で、子どもたちが話しかけてくれます。子どもたちにとってクリスマスは、サンタクロースがプレゼントをくれる日なのだと思って、心待ちにしているのです。

私が駆け出しの牧師だった頃のことです。初任地の教会で行われていた子どもたちのためのクリスマス祝会では、毎年サンタクロースが登場しました。年輩の信徒の方が赤い衣装を身にまとい、子どもたちにプレゼントを渡してくれていたのです。しかし私は「聖書の中にサンタクロースなんて出てこない」と言い張って、クリスマス祝会でサンタクロースの登場を止めさせてしまったことがあります。「今年はサンタはいないんですか」と、長年サンタクロース役を引き受けてくださっていた方が、とても寂しがっておられたのを覚えています。今振り返ると、なんて大人げないことをしてしまったのだろうと、恥ずかしくなります。

サンタクロースのモデルになったのは、4世紀頃、現在のトルコにあたる小アジアリュキア地方の都市ミラで主教をつとめた、聖ニコラウスだったといわれています。自分自身は質素な暮らしをしながらも、生活に困窮している人々への支援は惜しみなかったそうです。

フィンランドのロヴァニエミという町は、サンタクロースの町として有名です。日本からもサンタクロースへの手紙が毎年たくさん届いています。ある年のクリスマスに、このロヴァニエミにある郵便局へ、当時東欧のボスニア・ヘルツェゴビナに住んでいた少女から、色ガラスの破片が同封された一通の手紙が届きました。手紙にはこう書かれていたそうです。

「私の周りで一番きれいなものを贈ります。だから、平和をください。」

当時ボスニア紛争と呼ばれる武力衝突のただ中であって、建物が破壊され、多くの人々が静かに暮らす場所を失っていました。がれきの中で過ごす日常生活で笑顔を見失った女の子は、切なる願いをサンタクロースに託したのでしょうか。

あれから年月は経ちましたが、今またウクライナの地では、隣国からの攻撃により同じような事態が引き起こされています。サンタクロースに宛てて手紙を書いた少女と、同じ気持ちを持っている人たちがいることを思うと、一日も早くこの戦争が終わることを祈らずにはいられません。

ベツレヘムの荒れ野で、夜通し羊の番をしていた羊飼いたちに天使があらわれて、救い主イエスの誕生が告げ知らせた時、天使はこう言いました。「わたしは、民全体に与えられる大きな喜びを告げる」(ルカによる福音書2章10節)

すべての人々に向けてこの喜びの知らせは告げられたのです。飼料桶に眠る幼な子は、私たちに平和と喜びをくださると聖書は伝えます。聖ニコラウスの活動は、イエスを遣わしてくださった神様への感謝と、この喜びのプレゼントを一人でも多くの人と分かち合いたかったのではないのでしょうか。クリスマスを迎えるこの時、神様が届けてくださったこの出来事を、私たちが平和をとりもどすための縁(よすが)としたいと思うのです。

日本キリスト教団四條町教会 牧師
藤 秀彦

とちぎYMCAの使命。 ~みつかる。つながる。よくなっていく。~

2022年度とちぎYMCA年間聖句

何も思い煩わないで、あらゆるばあいに、感謝をもってささげる祈りと願いによって、あなたがたの願い事を神に知っていただきなさい。そうすれば、人のすべての考えにまさる神の平安が、あなたがたの心と思いをキリスト・イエスにあって守ってくれます。

(ピリピ人への手紙 4章6節)



認定こども園 さくらんぼ幼稚園 「秋の活動」



行事が盛りだくさんの10月。今年は例年通りの活動が戻ってきました。

秋の遠足。まあがれつ・ぼびい組はうつのみや文化の森公園、年少組は宇都宮動物園、年中組はなががわ水遊園、年長組は那須どうぶつ王国にてかけました。秋空の下で自然を満喫できました。

ろまんちっく村にはさつまいも掘りにかけました。クラスで掘った畝によっては多少の違いがありましたが全体的には豊作でした。風が冷たい日は園に戻ってからお弁当を食べたクラスもありましたが、木々が色ついてきた公園で楽しい経験ができました。

降園時リュックを背負う姿からは重いながらも心なしか大きいお芋を掘った達成感が感じられました。

11月2日は森林公園にて年長組のデイキャンプがありました。11月にしては暖かい一日でハイキングやスタンプラリーを楽しみました。展望台からの景色を味わいながら「ヤッホー!」……。もう一度「ヤッホー!」……。遠くから微かにこだまが聞こえたような。

森林公園の広場は紅葉の見頃。黄金色の葉を通して足元に届く日差しは暖かく優しく子どもたちを包んでくれました。

私たちが住む栃木県には魅力的なスポットがたくさんあることを再発見できた秋になりました。



最後になりましたが、今年度は2年ぶりに給食試食会を行うことができました。クラス委員の方々、参加して下さった保護者の皆様ご協力ありがとうございました。

本澤 利香

ようとう保育園

「英語あそび」



〈ふじ組〉
2歳児(つばめ組)の頃から、ひろばでの英語あそびにワクワクし、時々後ろの方で参加させてもらっていました。ふじ組になり、「ようやく私たちの番!」とばかりに「英語あそび、いつ?」と毎週楽しみにしています。最初は、名前を聞かれ答え

ることが恥ずかしかった子も、今では「I'm○○」と堂々と言えたり、曲に合わせて体を動かしたりと、英語に慣れ親しんできたところです。教わったことを、日々の保育のなかでも取り入れ、英語が身近なものになるよう、これからも楽しんでいきたいと思ひます。

4歳児担任 和田 有加里

〈さくら組〉
今年英語あそびも2年目。英語で質問されたことに対して、堂々と答えられるようになりました。その日、教わった英単語や、歌を覚え、あそびのなかで使ったり、口ずさんだりしています。家に帰っても「今日はこんなことやったよ〜」とお家の人にも、教えているようです。「今度は何をやるのかな〜?」と毎週期待を膨らませながら、参加しています。



5歳児担任 浜野 愛理・山口 浩美

子どもの家だより〜 瑞穂台小子どもの家(みず台クラブ) 「はじめての遠足!!」



長期休み期間中は様々なイベントを企画していますが、今年の秋休みは徒歩での遠足を実施しました。片道約3kmの道のりを子どもたちは歩けるのか?いや、むしろ職員が歩ききれぬのか?との不安の中出発!バッタやトンボが飛び交い、猫じゃらしが生い茂る川沿いの道。初めて聞くような野鳥の声を聴きながら進む、鬱蒼とした森の中の小径。帰りはへこたれそうになっていましたが、遠足係の保護者さんご協力のもと、無事に歩ききることができました。公園で食べたお弁当もおいしかったね。参加児童86名、自然を満喫した1日でした。

主任支援員 松本 しのぶ

宇都宮市青少年活動センター トライ東 「2022年も残すところあと僅かです」

早いもので2022年も残り1ヶ月となりました。

今年のトライ東は新型コロナウイルス感染症による影響も昨年度程ではなく、地域の皆さまと共にイベント、セミナー等が滞りなく実施できたことに改めて感謝いたします。

10月にはハロウィーンカーニバル、11月には秋まつりと、どちらのイベントも300〜400名の方々が集まり、何よりも皆さまの笑顔を見ることができたことを嬉しく思います。そして、プログラムに参加する子どもたちや、ロビーに集うお友だちの様子を見ていると、その成長に驚かされます。

小学生テニスでは、最初の頃は各々がプログラムに参加している様子でしたが、回を重ねる毎にお友だち同士での会話も増え、心の距離が縮まったように思います。

打っているお友だちの順番を待っている子どもたちが「がんばれ!」や「お〜すごいね!」と応援をすることで、全員のやる気も向上しており、互いに良い影響を与えていることを嬉しく思います。



一方わくわくトライキッズでは、グループの中でお友だち同士の意見が異なった際に、お互いが納得するまで話し合いをする様子があり、最初の頃には見られなかった姿を見ることができ、感動しました。

これらのエピソードの他にも、利用者の中高生との関わりや、ボランティアの皆さま、地域の皆さまとの関わりを持つことができる日々を喜びとし、皆さまにとっての居場所となる施設運営を目指し、精進いたします。今年も皆さまにお支え頂けたことに感謝申し上げます。

子どもの居場所 アットホームきよはら 「ハロウィン」



久しぶりの投稿になります。今回はハロウィンの様子をお届け!

今年のハロウィン、アットホームきよはらでも大盛り上がりでした。数日かけて行いましたが、特に子どもたちは仮装に興味津々で、来所する度に仮装をして楽しんでいました。子どもたちに誘われて、スタッフも一緒に楽しみました。普段以上に大笑いした日を過ごせたと思います。これをきっかけに子どもたち同士の距離も縮まったようにも思えます。

また、アットホームきよはらではさくらんぼ幼稚園から頂いたカボチャでジャックオーランタン作りにも挑戦してみました!普段から絵が好きで描いている子が完成図のイラストの作成やカボチャへの下書きを積極的に取り組み、楽しんでいる様子でした。夕食後、実際に部屋の明かりを消して中に明かりを置いた瞬間、なんと...一斉に感動が沸き起こりました!

そしてハロウィンと言えば、お菓子!子どもたちは声を揃えて「トリックオアトリート」と叫びながらスタッフからお菓子の詰め合わせをもらいました。子どもたちは大喜びで、中にはすぐに開けてしまう子もいました。コロナ禍で中々思うように施設外でのイベントができない為、こういったイベントで少しでも子どもたちが楽しんで思い出のひとつになってくれたらと思っています。次回はクリスマスの様子をお届けするつもりです。どんなクリスマスになるか楽しみです。



子どもの貧困撃退♡チャリティ サンタ de ラン&クリーン

毎年恒例の県内 NPO で協働して開催する子どもの貧困撃退チャリティーイベント「サンタ de ラン&ウォーク」、今年も開催します。7人に1人の子どもたちが貧困の状態にあると言われます。友だちや仲間に「子どもの貧困」を伝えて、サンタに街をキレイにします。重要なのは「伝える」ことです。子どもの貧困をなくす「仲間」をたくさんつくりましょう！とちぎYMCAも益金の寄付先団体として、本イベントに参加します。また、YMCAのユースが、実行委員会に加わり、社会課題解決のためのアクションを行っています。

【参加方法】QRコードからお申し込みいただけます

①サンタで参加～目立って、多くの人に知ってもらいましょう
*参加には、参加費+寄付金が必要です。

②ボランティアで参加～みんなでイベントを盛り上げよう!!

③寄付で参加～「寄付」も参加方法の一つです。

【問合せ先】とちぎコミュニティ基金 サンタ de ラン実行委員会

※昨年、高校生ボランティアグループ「つぼみ」が他団体NPOと協働して、子どもの貧困について考える動画を作成しました。ぜひご覧ください! →



YMCA English 中高生クラス「継続は力なり☆」



前回の成人クラスのご紹介に続き、今回は中高生クラスをご紹介します。YMCA Englishの特徴のひとつとして、長くご継続される生徒さんが多いことが挙げられます。宇都宮、宇都宮東、那須の3校でも、幼児からYMCAで英語を始め、小学校、中学校、高校まで長くご継続されている生徒さんが多くいらっしゃいます。今回は那須YMCAスタッフより、中学3年生の生徒さんをご紹介します。

那須からは、中学3年生の相馬芭奈ちゃんをご紹介します! 芭奈ちゃんは年中クラスからご入会され、今年で継続10年目となります。他校や塾での経験は無くチャキチャキのYMCAっ子です。また、これまでに英語のサマーパーティー、クリスマスパーティー等のイベントも沢山参加してくれました。

芭奈ちゃんによると、「YMCAでは英語を勉強しているという意識は無く、遊んでいる中で英語を使っていた」そうです。そして、今年度担任のリーアンにも話を聞いてみたところ、「芭奈ちゃんはネイティブスピードの英語をきちんと聞き取れるだけでなく、自分の言いたい事を適切な英語を使って会話ができる」そうです。これからも、もっともっとレベルアップが期待出来そうですね!

YMCA Englishではこれからも生徒の皆さんお一人おひとりに寄り添い、学びのサポートに努めていきたいと思えます。一緒にがんばりましょうね! Keep it up, everyone!*

高校生ボランティアグループ「つぼみ」ラジオの収録に挑戦!



11月10日、高校生ボランティアグループ「つぼみ」が2回目のレディオベリーのラジオ収録へ行って参りました。

『音楽のミナテラスとちぎ』という番組内の県内の地域支援団体の紹介コーナーにて、つぼみ食堂と、とちぎコミュニティ基金のサンタ de ラン & クリーンについてご紹介させて頂きました。子どもの貧困について、高校生が思うことをお話しさせて頂く貴重な機会となりました。今回の収録の放送はすでに終了していますが、なんと12月にも「つぼみ」は収録を予定しています。ぜひご期待ください!

Amazon みんなでサンタクロース

Amazon「みんなで応援」プログラム

ほしい物リストで笑顔をお届け



とちぎYMCA



みんなでサンタクロース
施設の子どもたちにプレゼントを

Amazon による社会貢献活動の一つである「みんなで応援ほしいものリスト みんなでサンタクロース」プログラムが、今年も11月よりスタートしました。クリスマスや年末年始のホリデーシーズンに、Amazonの「ほしいものリスト」を活用したチャリティキャンペーンです。今回、YMCAはパートナーとしてとちぎYMCAを含む全国のYMCAにおいてこのキャンペーンに参画します。QRコードからAmazonサイトに移り、とちぎYMCA 欲しいものリストをご覧ください。多くの子どもたちが室内、野外で十分に体を動かしたり、豊かな学びのときを持ったり、仲間とのかけがえのない時間を過ごすことができるよう、皆様のご協力をお願い申し上げます。



←ご協力は
こちらから！

月刊# (ハッシュタグ)

第19回 #なにそれなにそれ



とちぎYMCA総理事
塩澤 達俊

#カントダキ#ちくわぶ#ダイバーシティ

(今月はクリスマスなので平和やダイバーシティについて書こうと思い、喩え話としてどんな鍋料理がいいかなあと考えていたら・・・)

いよいよ《関東炊き》が美味しい季節ですネ ^^

「カントダキ????」と思われた方は関東地方や東日本のご出身で、「そう、そう、カントダキ!」と思われた方は関西方面ご出身かもしれません。《関東炊き》とはいわゆる「おでん」のことを関西ではそう呼ぶのだそうです(わたしは桂枝雀さんの上方落語ではじめてこのコトバを知りました)が、日本中のコンビニに「おでん」が普及したおかげで関西でもいまや「カントダキ」は「????」な言い方かもしれませんね。

ところでコンビニ「おでん」の全国的普及は具にも影響が少なくないようです。

東京地方から全国区入りを果たした代表が「ちくわぶ」で、逆に関西方面から全国区入りしたのが「牛スジ」ではないでしょうか(と思います)。



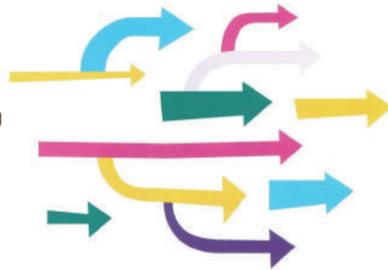
「ちくわぶ」を初めて食べたのは子どものころ東京で、どうして竹輪でも麩でもない白い棒をわざわざおでんに入れて食べるのだろう?と(栃木っ子のわたしは)不可解に思ったものでした。ところが、いまでは出汁が沁みだトロトロの「ちくわぶ」はわたくし的【癖になるおでんの具】ベストテン入りを果たしています。

一方「牛スジ」は関東ではあまりなじみのなかったおでんの具です。もともと関東では関西より牛肉の登場率は低く(特に私のうちでは ^^;) カレーといえば豚肉が当たり前で、肉ジャガは100%豚肉でした。ところが関西ではこれが真逆だったそうですね。いまではコンビニおでんのおかげで「牛スジ」もわたくし的【辛子多めで熱燗日本酒でやりたくなるおでんの具】トップテン入りを果たしているところです。

おでんの具に限らず、人も文化も考え方も宗教も、あれやこれや、わいわいがやがや、カラフルにゆきたいものです!

今年も月刊コラム「#」をお読みいただき、ありがとうございました。みなさまに、よきクリスマスとおだやかな新年2023年がまいりますよう。

YMCAが実現したい世の中の姿



互いを認め合い、高め合う
「ポジティブネット」のある
豊かな社会を創る。

「ポジティブネット」 Positive Net

互いの存在や個性を認め合い、高め合うことのできる、善意や前向きな気持ちによってつながるネットワークのこと。課題の多い社会のなかで、それは、生きるためのひとつの選択肢となっていく。私たち日本のYMCAは、グローバルなネットワーク基盤を活かしてポジティブネットを広げ、希望あるより豊かな社会を創ります。

SDGsの実現に向けて



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

2015年に国連サミットで採択された、持続可能な世界を実現するための開発目標です。17のゴールから構成され、地球上の誰一人として取り残されないことを誓っています。私たち一人ひとりが社会課題を「自分ごと」として考え、行動することが第一歩となります。